

リンドウ新品種 「ふくしまさやか」の育成

福島県農業試験場 育種班

平成13年度福島県農業試験場試験成績概要

分類コード 05-25-01030000

部門名 花きーリンドウー育種

担当者 遠山芳弘・遠藤亮子

I 新技術の解説

1 要旨

(1) 育成経過

開花盛期は、露地栽培で7月下旬である。旧盆出荷には若干早い、無加温ハウス栽培では6月下旬から収穫できる。花色は明るい青紫色であり、開花期のそろいが良い。花段数は7段前後で、切り花としてボリューム感がある。

草丈は高く、定植3年目で130cm前後となる。茎立ち本数は7本前後と少なく、「ふくしまみやび」の約半数である。1節側枝は4本発生するが、2節以上の側芽の発生はみられない。生育旺盛で株の衰弱が少なく、無加温ハウス栽培では定植2年目から収穫できる。

(2) 特性概要

エゾオヤマリンドウの早生系（アルプス系）から実生選抜を繰り返して得られた個体及びエゾオヤマリンドウ（中生系）から実生選抜を繰り返して得られた比較的開花期の早い2個体間の交雑（F1）品種である。

平成5～7年に組み合わせ能力検定試験を実施し、「郡交9」を付与した。平成8年からは生産力検定試験を実施し、「福島交3号」を付与した。さらに、平成11年から地域適応性検定試験を実施し、平成13年にその特性を確認して育成を完了した。

2 期待される効果

- (1) 本県独自のオリジナル品種であるので、市場に有利な販売が可能である。
- (2) 品質の揃いが良いので、規格外などのロスが少ない。また、生育旺盛なため定植2年目より収穫が可能であり、経営的に有利である。

3 適用範囲

収穫期は需要期である新盆と旧盆の中間に当たるが、無加温ハウス栽培により開花期を前進化し、新盆需要期の出荷が可能となる。特に、積雪が少なく、夏季冷涼な中山間～山間地域においては有利な作型展開が期待できる。

4 普及上の留意点

- (1) 栽培圃場は水田転換畑がよく、連作を避ける。無加温ハウス栽培に適するが、1年目は早めに定植し、ビニール被覆をしないで株養成を図る。
- (2) 保温開始時期は、生育温度の関係から、早くても1月下旬以降が適当である。開花期を早めるには、生育初期から側芽発生期までの期間はできるだけ夜温を高く保つ。なお、日中は、25℃を越さないように換気に留意する。最低気温が10℃以上になれば、昼夜ハウスを開放して、茎葉を硬く育てる。
- (3) 収穫後は被覆資材をすべて除去し、できるだけ涼しい環境下で栽培する。

II 具体的データ等

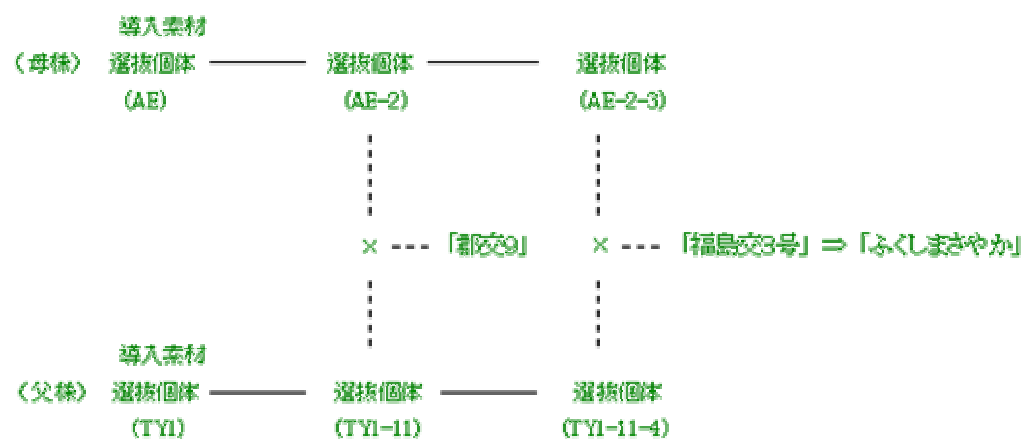


図1 「ふくしまさやか」の育成経過

表1 「ふくしまさやか」の特性概要

主 要 特 性	ふくしまさやか	対照品種(標準品種)	
		尾瀬の夢	スカイブルーながの
開花期(露地)	早(7月下旬～8月上旬)	早(7月下旬～8月上旬)	早(7月下旬～8月中旬)
開 花 順 序	中部より	下部より	全体一斉
草 丈	120～150 cm	90～119 cm	90～119 cm
1節側枝発生数	1～4本	5～8本	1～4本
葉身の形状	広披針形	広披針形	披 針 形
花冠外面の色	青 紫	濃 青 紫	青 紫
花冠内面上部の色	浅 青 紫	鮮 青 紫	明 青 紫
花冠の形状	鐘 形	鐘 形	鐘 形
花冠先端の回転	外 反 転	反転せず	反転せず
茎当たり総花数	30～49 花	30～49 花	30～49 花
〈注1〉平成11年6月、地域適応性検定圃場(相馬郡飯館村)に定植。 〈注2〉対照品種(標準品種)の数値等は、品種登録特性表を引用したもの。			

Ⅲ その他

1 執筆者

遠山芳弘・遠藤亮子・草野秀一

2 主な参考文献・資料

なし